

# 防災分野

## 研究領域

### 「持続可能な社会を支える防災・減災に関する研究」

採択年度	2021年	研究期間	5年間
研究課題名	沿岸でのレジリエント社会構築のための新しい持続性システム	貢献する主なSDGs	  
研究代表機関	京都大学 防災研究所		
相手国	インドネシア共和国	主要相手国研究機関	バンドン工科大学
<b>研究課題の概要</b>			
<p>本研究は、インドネシア沿岸保全を対象に、最新の科学技術に基づいたモニタリング網の整備、災害解析技術や防災減災手法の技術開発および移転を行い、沿岸地域の防御機能向上を図るとともに、防災、環境、経済の調和の取れた沿岸域を実現することを目指す。目的の実現に向けて4つのサブ課題、（1）波浪、砂浜およびマングローブ林のモニタリング技術の開発、（2）波浪、津波および洪水に対するマルチハザード評価手法の構築、（3）マングローブ・砂浜などのグリーンインフラ<sup>※1</sup>による減災機能の評価とグレーインフラ<sup>※2</sup>を組み合わせた最適な減災機能の定量化、（4）グリーンインフラを維持するための環境教育やエコツーリズムの確立、背後地域の避難計画策定および防災教育の体系化などを進める。これらの成果に基づき、自然順応的な沿岸防御技術に対する統合プラットフォームを構築し、インドネシア沿岸部のマルチハザードに対する軽減手法の体系化と社会実装を目指す。</p>			
※1 グリーンインフラ（Green Infrastructure）自然が持つ機能を活用したインフラ			
※2 グレーインフラ（Gray Infrastructure）人工構造物で構成されるインフラ			